

山寺ふるさと便り

=第29号=

# 宝珠のしずく

題字 後藤仁田(性相院)

発行所 やまでら館

〒999-3301 山形市山寺517-1  
TEL 023-695-2001 FAX 023-695-2164

発行者 山寺地区振興会  
編集 宝珠のしずく編集委員会

## おめでとう!!

### 山寺小学校創立150周年

### 山寺中学校創立77周年

### 山寺小中併設創立37周年



令和6年10月4日に、山寺小学校150周年・山寺中学校77周年・小中併設37周年の創立記念式典が、児童、生徒、教職員、来賓、多くの地区の方々が参列し開催された。

小学生による山寺物語では、歌手の工藤綾乃さんと山口岩男さんの演奏で石切踊りが披露され、大いに盛り上がった。中学生の迫力ある磐司太鼓も圧巻。参列者は、活気あふれる子ども達の姿に感動の嵐。

高橋郁子校長のあいさつより「明治7年9月に山寺小学校が開校しました。略々特認校である本校は俳句を詠むことで自分達の強みを知り、石切唄を歌うことで山寺の歴史と地の理を学び、山寺物語を演じ続けることで「自分達で文化を創りあげる喜び」と「人のいのち」は縦につながっていくことを感じていきます。」と略。

#### 山寺小学校 校歌

作詞 武田 唯雄  
作曲 橋本 正夫

- 一、朝あけ清く 宝珠山  
緑かわらぬ 丘の上  
光はここに 輝いて  
むねふくらます まなびやは  
我らが希望の 山寺母校
- 二、みなもと遠く 立谷川  
高僧聖が 培った  
永遠なるまこと 氣にうけて  
むねとどろかす まなびやは  
我らが矜持の 山寺母校
- 三、桜並木に 風かおり  
たがいにげむ この六年  
かたく誓って 師と我の  
むねにぎざんだ まなびやは  
我らが心の 山寺母校



官書記所判裁  
写真装正

### ☆ 円仁と立石寺

山寺山は川原町にあつて、立石寺もここにある。山号は宝珠山である。

この寺の主僧は、当代に限り先代の主僧情田が山内を修復し、すたれた立石寺を再興した功績により、弟子に譲ることを許された。主僧は壬生優田。会津の人。僧位は僧正である。

### ☆ 立石寺の境内

さて、山寺山の様子を記すことにしよう。山寺山の麓の東の端に薬師堂がある。これは、比叡山の根本中堂にならつて建てられたと立石寺縁起に記されている。建て方などいたつて古めかしい。最上義光の寄進した経、三尺余の鰐口が正面に架けられている。薬師堂は、今、借り受け、学校体操場になっている。この堂の北西(乾の方角)に清和天皇の御石塔がある。その西に日枝神社がある。その傍に、幾つかの小社がある。これも、比叡山坂本にならい建てられたと云う。近頃まで日枝神社は山王権現と呼ばれ、仏の祀りをやっていた。本当に意外なことである。四月

中の申の日に例大祭をとり行なつてきている。昔は、田楽法師等が神に奉げる仕種の舞いをしていたと、同じ縁起に書いてある。社の西に念仏堂。傍に山寺山(立石寺境内)に登る道がある。登らないで西に行けば本坊である。ここに、

僧正が住んでいる。さて、山に登ること一町ほどの処に、大変清らかな冷水が流れている。この山で流水はこの外にない。その傍に崩れ落ちた大岩。笠捨岩と呼ぶ。いよいよ登れば、奇岩・怪石が道の左右に横たわっている。四角な岩、円い岩、高い岩、低い岩。今まさに倒れんとする岩もある。高く聳えている岩も。実に言葉で言い表すことができないほどである。傍に繁っている老若の杉は高さを競い合つて直立し、枝葉相触合い、その音颯々と聞こえる。まさに仙境もこのようなのではないかと思われる。ことに途中の**きざし**は巧みに造られその美しさから費用は幾らかかったのかな・・・このきざしはしの畔に、

伊藤友信先生著 <Ver4略完>

## 『山寺村風土略記』

高さ三尺、中一尺五寸ばかりの大変古るめかしい石碑が立っている。この御山で最も年を経たものと云われている。文字は消えかかつており定かでないが、天養元年甲子八月の文字はかすかに読むことができる。年代を調べたら、第七十六代近衛天皇の御宇に建てられたものとわかる。今年で七百四十余年になる。どんな登れば、仁王門に至る。仁王両像が安置されている。これより上は、多くの寺・坊が連なり立っている。奥の院はその最も上である。往昔にはこの辺りに、二十二の寺があつたという。今は僧侶が住む寺はわずかに4ヶ寺しかない。

この辺りを見ると、岩でない処はなく、且その高いことに驚かざるを得ない。最も不思議なことは、その岩の穴の余りにも多いことである。麓より奥の院までは、全長八町ほど。縁起によれば、当山を三崎(山の険しき)に分けられている。その一つ、東岩は釋迦ヶ峰である。その岩の頂に釈迦堂が祀られているから、そう呼ばれている。断崖数十丈、前は青々たる杉林。深い谷の中に茂り、緑々たる松の樹がこの岩上に立っている。この峰に登るのに胎内くぐりがあり大変険しい。

正月十四日入定した処と云われている。沢山の板でその穴を閉じている。今年で、一千二十四年になる。その傍に開山堂があり、抹香の香りの絶えることがない。信仏の輩は、ここで必ず尊敬の意を起こすに相違ない。又この堂の傍に納経堂という小さなお堂がある。石墨草筆の作法での如法書写の御経を閏年の霜月二十八日奉納すると、縁起に書かれている。この頃に行つてみると、蜂どもが沢山飛び交い、大変大きな巣をつくっている。堂の後から首を出して下を覗けば、その高さ幾百仞(高さの単位で、一仞は七、八尺)か。開山堂の上に登ると五大尊堂である。堂の中には、両手でも持ち上げられない程の大鐘が吊るされている。この堂より、山寺村のおおよそが眺められる。堂より西に向うと鉄の鎖につかまりよじ上ること二町許にして、天狗岩がある。こここそが、三崎の西の端である。かつて自分が登つてみたが、西の方に最上川の平野がかすかに広々とひろがり、目を遮るものがない。又はるかに朝日嶽の山脈が見渡せ、最上川がかすかに見える。風情があつた。

時は明治二十年十月(神無月)初旬  
山寺に在した時に書く伊藤 友信

## 開山堂と開山忌法会

1月14日、宝珠山立石寺境内の開山堂で一山衆徒と一般衆徒が開山堂に集い開山忌法会が営まれた。

開山堂は、宝珠山立石寺を開山なされた慈覚大師円仁の偉大な業績をたたえるために建てられた御廟である。

大師は、延暦寺第三代座主であり、立石寺の座主でもある。格式のあるお寺の座主は、往時は、天皇が任命するのであった。

大師は、中国に渡りほゞ十年間、最も新しい仏教の教えを学び、多くの経典を持ち帰り、日本でも当時の最新の仏教を学べるようにした日本一の和尚であり、学者であった。

現在の開山堂は、嘉永四年(二八五二)、立石寺六十五世情田和尚が再建したものである。御堂には、大師の座像が安置されている。

御堂では、常香(通称、千百有余年の間、不滅の法灯)が、今日も灯され続けている。

また、毎月の忌日(十四日)、一山の衆徒が集い、忌日法会を修している。特に、正月十四日と八月十四日の忌日には、御堂の扉を開け、正月十四日は開山忌と呼び、一般衆徒に参拝を呼びかけ法会を修してきている。

安置している大師座像には、一山



塔頭衆徒が一週間交代制で夏期間・冬期間、廊下の梵鐘を打ち鳴らして、山寺地区内の一般衆徒にお知らせしている。

御堂には、他に大師縁の宝物が安置されている。

厨子の左にある木像の大師のお姿像は、情田和尚の時代に、下野の國壬生寺から贈られたものと伝わっている。

大師幼少のみぎり、お育てなられた櫃(カヤ)の古木に刻んだお姿座像だといわれている。

右側に掲げられている画軸の姿の和尚は、立石寺中興の祖と讃えられる円海僧都であると伝わり、正面には、四角の常香炉が置かれ、長い年月、常香を匂わせてきている。

## 川瀬巴水『山形山寺』を観て

山形新聞7月23日(22ページ)山形会場限定(主催・山形新聞、山形放送、山形美術館)で、川瀬巴水『旅と郷愁の風景』の版画展の紹介記事が載った。

この記事の左の写真を見て、この版画の月の出は、山寺の「辰巳の方角、二口峠付近」から昇る「月の出」の様子であると、すぐに分かった。

小学生の頃、近所の友達4人で、この五大堂からの月見を見に立石寺のきざしを上ったことを思い出した。

4人のうち2人は黄泉の国へ旅立ってしまったが、この版画を見たらどんなにか、会話が弾むだろうか。当時は、「月、大きい。うづぐすい。上ってきてよかった」と叫んだと記憶している。月明かりの五大堂の舞台欄干によりかかってしばらく月を眺めた。薄暗い月明かりの中での月見は、少し不気味であった。



(木版画制作 渡邊木版美術画舗)

話がそれってしまった。本題に戻る。

山形美術館、学芸員白幡菜穂子氏の紹介記事は、ひと味も二味も深みのある洞察をしている。

\* 巴水の作品は、巴水の円熟期に差しかかった時期の作品、

\* 大正から昭和にかけて全国各地の名勝地で、木版画作品として制作された時の作品である

\* 巴水の「山形 山寺」の版画は、山寺五大堂のイメージの眺望絶景を強調する一般的な構図を取っていない。

\* 『雲一つない夜空に煌々と輝く月と人けのない五台堂内を対峙させ、堂内の静寂に満ちた信仰の場の情景を表現している

\* 全国を旅して写生し、その地に息づく人々の営みや風土を版画に生み出しており

\* 一般的な名勝絵でなく、自らの視線で構図を切り取り静寂と簡素な美しさを讃えて描ききっている

等々と紹介くださっている。

紹介の記事にある「手を伸べて月をとらばや 五大堂」の句は、地元山寺の俳人矢萩魯石の昭和初期頭の作。現在、山寺駅から500mほどの立谷川に架かる芭蕉橋欄干右側中間に、銅版に刻み掲額されている。

# 「ヤッショーマカショ、やまでらへ」

令和6年8月5日、山寺花笠愛好会が山寺小創立150周年記念を祝い、児童生徒、卒業生、教職員、家族ら総勢60名で花笠パレードに参加した。150周年の横断幕を先頭に、芭蕉に扮した教頭先生に続き、「ヤッショーマカショ」と汗をながしながら、観光地山寺をPRした。

翌日、花笠パレードを観覧したご夫婦が、一生けんめいに踊る子ども達の姿に感動し、山寺を訪れた。

山寺を誇りに思う子ども達の思いが通じたのでしよう!!



## 振興会

### ◆令和6年◆

- (4月) 山寺地区振興会総会
- (9月) 山寺地区敬老会
- (10月) 市長を囲む山寺の集いⅡ市政懇談会Ⅱ
- (月1回) 振興会役員定例会

振興会だより発行  
業を、まちづくり推進委員と振興会役員で実施。

### ●やまでら館と共催

- (9月) 防災講座
- (10月) 山寺地区文化祭

### ◎防災防犯部

「備えよう!」「まさか」は起きる」と題し防災講座を開催。近年、自然災害が頻繁に発生していることから、防災・減災についての知識を身につけて備えてもらうため、漫談を交えた講演に50人が参加。

### ◎体育振興会

- (1月) ソフトバレー・卓球大会
- (5月) ソフトボール・ソフトバレー大会
- (6月) さわやか軽スポーツ教室
- (8月) 町内対抗レクリエーション大会
- (11月) 秋の軽スポーツ教室
- (7・10月) 第4部ブロックさわやか軽スポーツ教室(グラウンドゴルフ大会)



〈防災講座〉



〈文化祭〉

### ◎社会福祉協議会

- (10月) 赤い羽根・歳末たすけあい運動
- (年3回) 山寺地区社協全体会議
- (年3回) 山寺地区福祉協力員研修会
- (月1回) 社協事務局会
- いきいき百歳体操

(7月・11月) 3つの道具を使い気軽に無理なく誰でもできる『3B体操』を開催。心身ともに健康な毎日を送り、地区民が集う場を提供。



〈3B体操〉

◎地域ぐるみの有害鳥獣被害対策  
収穫しない果樹(柿の木・栗の木)等の伐採。

### ◆令和7年◆

### ●やまでら館と共催

(1月) 新春初顔合わせのつどい  
令和2年に開催して以来、コロナ禍を経て5年ぶりに開催。88人が参加し、お話しや合唱の披露と賑やかに新年を祝う集いとなった。



〈新春初顔合わせのつどい〉

## やまでら館

### ◆令和6年◆

### ◎主催事業

- (1月) 手芸講座Ⅰ(全2回)
- (2月・3月) 手芸講座Ⅱ(全3回)
- (6月) 奥山寺遊仙峡トレッキング(雨天中止)

(8月) 手作りパン教室  
施設見学会  
親子リトミック①

(9月) 工作教室

(10月) 紅葉川溪谷トレッキング  
そば打ち教室

(11月) クッキー作り  
親子リトミック②

(12月) 親子リトミック②



〈蔵王ジャンプ台にて施設見学会〉



〈紅葉川溪谷トレッキング〉



〈クッキー作り〉

### ◎共催事業

- (5月) ヨガ教室①
- (9月) 防災教室
- (10月) 山寺地区文化祭
- (11月) ヨガ教室②

### ◆令和7年◆

### ◎共催事業

- (1月) 新春初顔合わせのつどい
- コミセン事務局長の異動
- (退職) 渡辺 尊
- (新任) 小幡 亨



〈山寺地区文化祭〉



**お誕生おめでとう!!**  
令和6年生まれ

・白石 頼人氏長男  
〈中地藏〉  
湊 人 さん




**おめでとう**  
**金婚さん**

柏倉 富良 優日子 夫妻  
〈川原町〉

後藤 武平 あき子 夫妻  
〈千手院〉

高橋 行夫 ゆみ子 夫妻  
〈南院〉

伊藤 忠 美枝子 夫妻  
〈中地藏〉

武田 憲士 富士子 夫妻  
〈千手院〉

三情報  
**耳よりな話**

◎山形中央高校文理科学部の生徒達が「山寺ゲームブック」を作成。山寺マールシェ(10月19、20日)開催でも販売し、好評を得た。

◎山寺中1年生が、山形中央高校生にアドバイスをもらい「山寺クロスワード」を作成。山寺の魅力再発見に、一翼を担うことでしょうか!!

◎山寺中生徒会会長の後藤瑠子さん、副会長の後藤蘭奈さん、事務局員の後藤康佑さんが、文部科学省主催の「全国いじめ問題子どもサミット」に参加してきた。山寺らしく松尾芭蕉に扮し、ポスターセッションを通して、山寺中の取り組みを紹介。また他の学校の発表を聞いて「思うだけじゃなくて言わないと伝わらない、様々な活動の中で、互いに絆を深めていく。」等々、多くの事を学んできた。

◎アニメ映画『好きでも嫌いなあまのじやく』に山寺日枝神社登場。聖地巡礼になっている。

◎令和7年3月30日(日)に山形市アズ七日町の中央公民館にて、女声合唱団「ふうが」の30周年記念コンサートが開催される。男声合唱団「大和」と「Mago-Kids」賛助出演。発表に向ける、一丸となって練習に励んでいる。



**表彰状**

山形市制施行135周年記念表彰  
柏倉 傳右エ門

やまがた広告景観コンテスト  
山形市長賞 遠藤物産

山形市建設工事優秀技術者表彰  
沼沢 孝一(山田組)

第79回県総合美術展  
洋画入選 佐藤 正紀

令和六年物故者  
**謹んでお悔やみ  
申し上げます**

〈千手院〉  
・後藤 銀蔵殿  
・増子 正一殿  
・馬形 形  
・後藤金兵衛殿  
・南院  
・増子 英豊殿  
・渡邊かよ子殿  
・川原町  
・水野 仁 殿  
・芦 沢  
・山田 千代殿  
・宮崎  
・矢萩 東一殿  
・地藏堂  
・布施しづる殿  
・布施まさの殿  
・中地藏  
・長岡 馨 殿  
・齋藤 和子殿  
・増子 曾一殿

・堀川 てつ殿  
・齋藤 昭夫殿  
・村並 秀夫殿

・遠藤彌右衛門殿  
・武田つるよ殿

山寺小5・6年生

# 山寺さ来てけらっしゃ〜い!

山寺中3年生

## 仙台駅前で魅力発信!!

## 大盛況!! 修学旅行、大阪新世界で商い!!



令和6年11月26日に、山寺小5・6年生が仙台駅で自分達で製作した「山寺パンフレット」を配布した。

事前に、山寺駅で観光客の皆さんにインタビューしてリサーチしたり、大阪で商品を販売してきた中学3年生からQRコード作成も含めアドバイスももらった。

☆パンフレットをもらった方々から

・声をかけてくれた時に「冬



の景色もきれいですよ」と説明してくれた、いってみたいと思った。

・わかりやすくしてすばらしい! 3つ折りのパンフレットを作る力にびっくり! と、うれしい言葉をたくさんいただいた。

令和6年7月3〜5日に山寺中3年生が大阪へ修学旅行に行ってきた。「紅花と山寺の魅力」を伝えたいと、山辺高校の生徒さんの協力を得て、紅花を使ったクッキーや、牛肉のしぐれ煮を商品化し、パッケージも作成した。

受け入れ先は大阪の新世界、商店街の皆さんの温かい協力のもと、すぐに興味を示してくれたお客や、台湾の修学旅行生もいて、積極的に声をかけた。修学旅行の目標の一つ「コミュニケーション能力を高める」



を達成することができた。商品は完売。皆さんおつかれ様でした。

## 山寺の子どもたちががんばっています。

● 蔵王三小・二中との交流会  
〜樹氷復活県民会議〜

今年度は、蔵王二中が取り組んでいるオオシラビソ（アオモリトドマツ）の稚樹植樹と一緒に取り組む交流会を行った。生徒達は、「多くの人が関わっていること。大切な観光資源を守るため、100本植えるような気持ちでがんばった。」と。



● 山寺小1・2年生は、『宝珠山立石寺』をもっと知ろうとがんばった。自分たちで見え、調べたことを、後日蔵王三小との交流会で発表した。



● 山寺小3・4年生は地域の方から教えていただいた「山寺の石」について、明治小の2・3年生に紹介。手作りマップも好評!!

## JR山寺駅前に紅花柄のマンホール



他の場所にもあるから探してみてね。

### 編集後記

宝珠のしづく29号を、山寺地区の皆さんはじめ、山寺地区に縁の方々にお届けいたします。

山寺地区の「まちづくり」は『歴史を伝える大師の里 心と力を合わせ 未来に誇れるまちづくり』である。

宝珠のしづくの編集方針もこの「まちづくり」のめざすところに力添えなるように心している。「宝珠のしづく」の記録は、山寺の歴史の証である。大事な30年の歴史になっていると自負できると思う。

次号は、祝30号に相応しい活動を展開し、「未来に誇れる」まちづくりの記録にの思いを持って編集に当たりたい。

- ★編集委員
- 新関 孝夫 ○矢萩 昭夫
  - 後藤 久 石川 進一
  - 小幡 亨 遠藤まき子